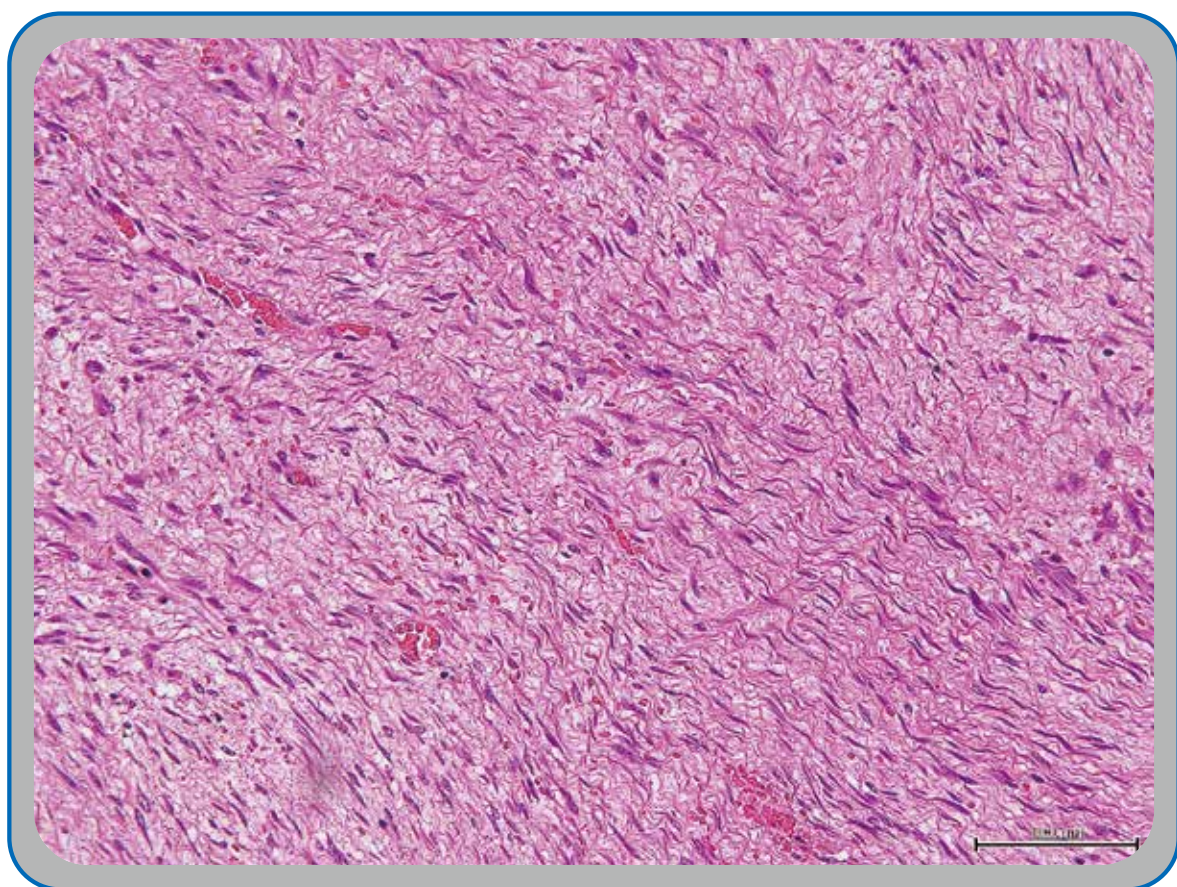


第29号

# さくらしま

2015



鹿児島大学大学院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕

紡錘形細胞が不規則な束上に増殖し、部分的に浮腫を伴っている。

# 目

# 次

巻頭言 .....	1
会長の挨拶 .....	3
I. 同門会員業績・学会発表 .....	4
II. 教室来訪者 .....	7
III. 教室行事	
1. 共催の講演会 .....	8
2. 第17回さくらじまフォーラム .....	11
3. 第14回「鼻の日」市民講座 .....	12
4. 第8回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座 .....	12
IV. 同門会報告 .....	14
V. 地域医療報告	
1. 学校保健（統計報告） .....	16
VI. 特殊外来通信	
1. 難聴・耳鳴・めまい外来 .....	17
VII. 各省庁諸研究 .....	18
VIII. 業 績	
1. 原 著 .....	19
2. 総 説 .....	21
3. 国内学会発表 .....	22
4. 国際学会発表 .....	27
5. 学位論文要旨 .....	28
IX. 医局通信	
1. 医局人事 .....	31
2. 学会報告	
①第33回気道分泌研究会 .....	32
②第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 .....	33

③第115回 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会…	33
④第9回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会…	34
⑤第76回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会…	35
⑥第38回頭頸部癌学会 ……………	35
⑦第21回マクロライド新作用研究会 ……………	36
⑧第2回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会…	36
⑨第27回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会…	37
⑩第53回日本鼻科学会総会・学術集会 ……………	37
⑪第24回日本耳科学会総会・学術講演会 ……………	38
⑫第66回日本気管食道科学会総会・学術講演会…	39
⑬第8回九州頭頸部癌フォーラム……………	39
⑭第25回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会…	40
⑮第33回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 ……	40
<b>3. 国際学会発表</b>	
①15 <sup>th</sup> KOREA JAPAN Joint Meeting ……………	42
②18 <sup>th</sup> WCBIP/WCBE World Congress ……………	42
③25 <sup>th</sup> Congress of the European Rhinology ……	43
<b>4. 関連病院便り</b>	
①鹿児島医療センター便り ……………	45
②鹿児島市立病院便り ……………	47
③藤元総合病院便り ……………	48
④鹿児島生協病院便り ……………	49
⑤天辰病院便り ……………	50
<b>X. 関連病院と診療日案内</b> ……………	51
<b>XI. 海外同門会名簿</b> ……………	54
<b>XII. 自治医科大研修生</b> ……………	58
<b>同門会会則</b> ……………	60
<b>編集後記</b> ……………	62

## 巻 頭 言

黒 野 祐 一


今年3月5日に私の還暦祝いの素晴らしい会を同門会そして地方部会の先生方に開催していただきました。まずはこの場を借りて皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

私が医師となり大山勝名誉教授が主催される当教室に入局したのが1980年、大分医科大学の故茂木五郎教授のもとで研鑽し再度鹿児島へ戻ってきたのがそれから17年半後の1997年11月ですから、今年2015年で大分医科大学と鹿児島大学での耳鼻咽喉科医としての道程を丁度一往復したことになります。まさに耳鼻咽喉科医としても還暦を迎えたような感慨深い思いです。そして、浅学菲才の私が今日ここまで教室を運営し、日本頭頸部外科学会など様々な学会を鹿児島で開催することができたのは、教室員の弛まぬ努力と同門会ならびに地方部会の先生方のご理解とご支援の賜物であると、改めて感謝申し上げます。

60歳という年齢に達した今一番感じるのは、健康であることの大切さです。私は見ての通り体格には恵まれませんでした。生来元気で、そのため度々怪我をすることはあっても病を患って寝込んだ記憶はありません。留学中にインフルエンザが流行し、家内と子供全員が40度の発熱で苦しんでいた時も、私はただ一人インフルエンザに罹患することなく家族の看病をすることができました。

とはいっても年齢を重ねるにつれ健康管理は欠かせないと考え、毎年人間ドックを受診していたら、血液検査でPSA値が少し上昇傾向にあることが分かりました。泌尿器科の先生に相談したところ、私が趣味にしていたサイクリングが原因だろうが念のために生検を試みようということになり、昨年3月に前立腺癌と診断されました。これまで数多くの頭頸部癌の患者さんを診察し、癌という言葉は何度も口にしてきた私ですが、その病名の重さが大きいのしかかり、心が潰されそうになりました。癌を専門とし医学部教授という職にある自分でさえもこれほどの衝撃を受けるのだから、一般の患者さんが抱く恐怖や不安がどれほど大きいか初めて理解できました。しかし、医師として現実を冷静に受け止めようと自らに言い聞かせ、家族の支えや友人の励ましもあって、化学療法とホルモン療法に加え手術までの治療を完遂することができました。この間にも一人の癌患者として、医師が発する一言の重さを敏感に感じそれに勇気づけられ、看護師の何気ないやさしさに慰められ、これまでの自分を深く反省するとともに、医師としてあるべき姿をようやく見出すことができたような気がします。

病を患って健康の大切さが分かるなど、医師として情けない気もしますが、還暦を迎



えたこの機会に初心に戻り，医療人としての新たな一歩を踏み出したいと思っています。皆様もくれぐれも健康に留意し，2015年末を実りある有意義な一年にしてください。

## 定期健診のすすめ

山 本 誠

今年は診療報酬の改定もなく、穏やかな年初めとなり、あとはアベノミクスを期待するばかりです。同門会や黒野教授の還暦のお祝いに多数の先生方の御出席をいただき、ありがとうございます。久し振りに馴染みの顔を拝見して心安らかとなりました。年々歳々こうあれと願っております。

私事では昨年から今年にかけて不安定な日々を過ごしています。昨年10月の定期健診でCA19-9の数値の異常が判明しました。CA19-9は初めて検査したのですが、何の癌マーカーとも知らずに慌てて調べると胆管癌や膵臓癌のマーカーと判り、あと2年しか生きられないのかと覚悟しました。かかりつけの内科の先生と相談して南風病院でPETを受ける事にしました。PETは初めてで恐る恐るの検査でしたが、結果としては異常所見はなく経過観察となりほっとしました。ところが本年1月の再検査ではPSA値が安全領域を越えていました。いろいろ検討してMRI検査を受けると前立腺の一部に腫瘍陰影が認められたので生検を受ける予定ですが桜の开花宣言を聞きながら不安な状態です。

同門会でも前山先生、勝田先生を大腸癌で失っており早期発見の大切さを痛感させられています。私の場合も早期であればと願っておりますが結果は神のみぞ知る事となりそうです。来年の同門会に元気に出席できたら幸いです。鹿児島市の医師会では年4回まで癌マーカーなどの検査が無料で受けられます。私は胃や大腸の内視鏡検査も2年毎に受けています。先生方にも定期健診をお勧めします。

来年度は鹿大主催の耳鼻咽喉科臨床学会がありますので物心両面から会員の皆様の御協力をお願い申し上げます。又、同志による合同還暦会も開催したいと思っております。



## せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

### 【論文】

内菌明裕：感染症迅速診断キット. JOHNS 30: 5; 627-631, 2014.

内菌明裕：ネブライザー機器の取り扱いと院内感染対策の検討. 耳鼻感染症・エアロゾル2(1): 6-10, 2014.

内菌明裕：「頭痛」症候が病名として登録されている症例の検討. 痛みと漢方24: 23-30, 2014.

内菌明裕, 森山一郎, 山本 誠：鼻アレルギー患者ならびに医師を対象とした鼻噴霧用デキサメサゾンシペシル酸エステル粉末製剤の使用印象調査. 耳鼻と臨床60: 5; 238～243, 2014.

飯塚徳男, 内菌明裕, 北野敬明, 他：医師の漢方処方に関する経験情報のデータベース化とその有用性. 日本東洋医学雑誌65: 2; 138～147, 2014.

山中昇, 末武 光子, 富山道夫, 内菌明裕, 他：小児急性中耳炎における抗菌薬変更の判断をいつ, どのように行うか. 耳鼻臨床107: 3; 199～207, 2014.

山中昇, 内菌明裕, 宇野芳史, 他：鼻副鼻腔炎併発は小児急性中耳炎の危険因子である. 耳鼻臨床107: 5; 381～386, 2014.

### 【著書】分担執筆

内菌明裕：口腔咽頭乾燥. 市村恵一 編集 耳鼻咽喉科 早わかり 漢方薬処方ガイド, 中山書店, 東京, 109-116, 2014.

### 【講演・学会発表】

始良漢方研究会 平成26年2月6日（始良市）

「耳鼻科から見た感冒の漢方治療」



第21回日本東洋医学会鹿児島県部会学術講演会 平成26年2月11日（鹿児島市）  
「小児の犬吠咳嗽に対する柴陥湯の使用経験」

第65回日本東洋医学会総会 平成26年6月27日（東京都）  
「声帯ポリープに対する桂枝茯苓丸加薏苡仁の効果」

第27回疼痛漢方研究会 平成26年7月5日（東京都）  
「思春期の頭頸部疼痛に対する四逆散の効果」

第2回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 平成26年9月5日（東京都）  
「抗インフルエンザ薬投与後の臨床経過の検討」

第30回耳鼻咽喉科漢方研究会 平成26年10月25日（東京都）  
「耳鼻咽喉科領域の不定愁訴に対する四逆散エキス顆粒の効用」

第488回愛胃会 平成26年11月13日（始良市）  
「耳鼻咽喉科から見た消化器疾患の漢方療法」

第1回九州 DRIOAMS 平成26年11月16日（福岡市）  
「副鼻腔炎は中耳炎難治化のリスクファクターか？」

私事で恐縮ですが、平成26年末で開業20周年を迎えることが出来ました。開業当初のことをあらためて思い返してみました。そのころは、携帯電話もまだそんなに普及しておらず、患者さんの待ち時間対策にポケベルをお渡しして一度外出してもらい、順番が来たら呼び出すなどといった事をやっていました。夜間休日救急対応用に、開業と同時に携帯電話を配備（auの馬鹿でかいセルラーフォンでした）し、診察券に番号を載せました。我ながらかなり無謀なことをしたものだと思いますが、今もそのまま続いています。

今では、携帯やスマホは当たり前、いかにして子供たちをスマホの害から守ろうかなどという時代になりました。それに比べて、耳鼻咽喉科の診療は、どれほど進歩したのかなあと思うこのごろです。専門医制度改革が叫ばれ、医療の質の向上が掲げられています。大学医局の弱体化を招いた現在の卒後研修のシステムもまた、改革(?)されるとのことです。超高齢化に伴う医療費増大は、歯止めをかけることが出来ないところまで来てしまい、予防医学への大幅な転換が必要といわれます。これまで、あまりに医学

と医療が実際の生活と乖離したものであった事の付けが回ってきたというところでしょうか？従来信じられていた医学の常識が間違いだったと露見することが目につくようになってきています。さび付いてきた脳みそを何とか保っていけたらと思います。

## Ⅱ. 教室来訪者

教室来訪者（平成26年4月～平成27年3月）

- |    |                   |      |
|----|-------------------|------|
| 6月 | 熊本大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 | 湯本英二 |
| 6月 | 九州大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 | 小宗静男 |
| 7月 | 島根大学医学部耳鼻咽喉科教授    | 川内秀之 |

### 1. 共催の講演会

1. 第99回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成26年4月24日  
 特別講演1：「睡眠時無呼吸症候群－診断提唱より37年を振り返って－」  
 帝京大学ちば総合医療センター  
 耳鼻咽喉科 教授 鈴木 雅明 先生  
 特別講演2：「眼窩壁骨折の対処法」  
 埼玉医科大学 耳鼻咽喉科 教授 加瀬 康弘 先生
  
2. 第20回南九州上気道感染症臨床懇話会 平成26年5月22日  
 教育講演： 「咳嗽と結核感染症」  
 かごしま高岡病院 副院長 高岡 俊夫 先生  
 特別講演： 「耳鼻咽喉科領域で知っておくべきトピック  
 －結核の現状と最新の治療－」  
 大阪府結核予防会 大阪病院 診断検査部長 松本 智成 先生
  
3. 第39回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 平成26年6月15日  
 一般演題： 「当科におけるアレルギー性鼻炎の手術治療成績」  
 牧瀬高穂, 馬越瑞夫 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)  
 「遺伝性血管性浮腫 HAE2型の1例」  
 谷本洋一郎 (あまたつクリニック)  
 「内視鏡下手術を施行した巨大鼻口蓋管嚢胞の一例」  
 積山 幸祐 (鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科)  
 「下咽頭癌の発見に Valsalva 法が有用であった2例」  
 吉福孝介, 西元謙吾, 平瀬博之, 松崎 勉  
 (鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科, 平瀬外科耳鼻咽喉科)  
 「アレルギー性鼻炎における治療の実態について  
 ～患者ならびに、医師アンケート調査から見えてくるもの～」  
 宮之原郁代, 宮下圭一, 黒野祐一  
 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)  
 特別講演： 「耳鼻咽喉科領域の画像診断－嗄声・頸部リンパ節病変の診断－」  
 東京慈恵会医科大学放射線医学講座 尾尻 博也 先生

4. 第29回九州連合地方部会学術講演会 平成26年7月12日～13日（鹿児島市）

「当院で経験したPFAPA症候群の1例」

積山幸祐，嶽崎智子

「当科における鼻性眼窩内合併症例の検討」

牧瀬高穂，宮下圭一，黒野祐一

「眼窩内蜂窩織炎を併発した篩骨洞神経鞘腫の一例」

地村友宏，宮下圭一，川島雅樹，牧瀬高穂，井内寛之，黒野祐一

5. 第13回鹿児島めまい研究会 平成26年7月17日（鹿児島市）

一般演題： 「ガンマナイフ治療の既往を有する聴神経腫瘍摘出術後髄液漏に内視鏡  
支援下の修復術が有用であったNF2患者の一例」

花田朋子，羽生未佳，時村 洋，有田和徳

（鹿児島大学大学院 脳神経外科）

「めまいを主訴としたneurofibromatosis type 1（NF1）に中耳真珠  
腫を合併した症例」

川島雅樹，宮本佑美，宮之原郁代，黒野祐一

（鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「めまいをふらつきで発症した橋本脳症の症例」

岡田敬史，高畑克徳，牧 美充，吉村道由，荒田 仁，

樋口雄二郎，高嶋 博（鹿児島大学病院 神経内科・老年病学）

特別講演： 「聴神経腫瘍・小脳橋角部腫瘍における聴覚平衡機能障害と手術につ  
いて」

東京医科大学脳神経外科 主任教授 河野 道宏 先生

6. 第100回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成26年9月18日

特別講演1： 「嚥下障害に対するチーム医療と病診連携」

杏林大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸科 准教授 唐帆 健浩 先生

特別講演2： 「慢性副鼻腔炎の病態と内視鏡手術」

独協医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 春名 眞一 先生

7. 第101回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成26年11月6日

特別講演1： 「鼻づまりの臨床」

鳥取大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授 竹内 裕美 先生

耳鼻咽喉科科長 診療教授

特別講演 2 : 「小児中耳炎の診断・治療」

昭和大学医学部 耳鼻咽喉科学講座 主任教授 小林 一女 先生

8. 第102回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成26年11月27日

特別講演1 : 「喉頭の再生医療と臨床応用」

京都大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 平野 滋 先生

特別講演 2 : 「アレルギー性鼻炎における minimal persistent inflammation とその制御」

岡山大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 准教授 岡野 光博 先生

9. 第103回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成27年 1 月 8 日

特別講演1 : 「2015年スギ花粉症治療と内視鏡下眼窩手術」

田中耳鼻咽喉科 院長 唐木 將行 先生

特別講演 2 : 「鼻副鼻腔炎症における局所粘膜での抗体産生とその臨床的意義」

日本医科大学武蔵小杉病院 臨床教授・耳鼻咽喉科部長

松根 彰志 先生

10. 第104回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成27年 2 月12日

特別講演 1 : 「小・中学校におけるアレルギー症状の対策」

今村小児科アレルギー科 院長 今村 直人 先生

特別講演 2 : 「アレルギー性鼻炎に対する国際標準治療とは？

－アレルギー免疫療法と薬物療法を考える－」

山梨大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

講師 松岡 伴和 先生

11. 第 4 回鹿児島聴覚・平衡研究会 平成27年 3 月26日（鹿児島市）

～聴覚診療に関する診断や治療に苦慮した症例～

積山 幸祐 先生（鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科）

宮之原 郁代 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

奥田 匠 先生（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）

特別講演 : 「メニエール病－難治性例の対応－」

富山大学 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授 將積 日出夫 先生

## 2. 第17回さくらじまフォーラム

本フォーラムは、下記内容で開催された。

日 時：2014年12月11日（木） 18：45～

場 所：鹿児島サンロイヤルホテル 1F「エトワール」

### 講演内容

総合司会 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 助教 宮下圭一 先生

### 【症例検討】

司会 国立病院機構鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科 医長 松崎 勉 先生

#### 1. 「声門下癌が疑われた喉頭結核の一例」

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 原田 みずえ 先生

#### 2. 「鼻腔癌が疑われたNK/T-cell Lymphoma」

鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科 林 多聞 先生

#### 3. 「失神発作を繰り返す頸部腫瘍」

国立病院機構鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科 吉福 孝介 先生

### 【How I do it?】

テーマ：「咽喉頭異常感症の取り扱い」

司会 鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科 部長 花牟禮 豊 先生

### 【特別講演】

「舌下免疫療法の位置づけ」

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 黒野 祐一 先生

今年、3つの症例検討と、How I do it?では、日常診療で、治療に難渋することが多い、咽喉頭異常感症を取り上げた。診断するにあたっての注意点（特に癌の鑑別）や、開業医の先生方からの経験に基づくコメントなども多数頂けた。特別講演では、黒野教授に今年のトピックの一つである「舌下免疫療法の位置づけ」についてご講演頂いた。舌下免疫療法の歴史から、海外の動向、日本での適応や起こりうる有害事象についての対応、今後の展望などについて紹介頂き、大変興味深い内容であった。



### 3. 第14回「鼻の日」市民講座

日 時：平成26年8月9日（土） 14時00分～15時10分

場 所：プラザN 4階ヴァリエホール（鹿児島市武1-4-2 鹿児島中央駅西口前）

#### 講演内容

司会 鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 宮下圭一 先生

#### ①においのしくみと嗅覚障害

鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 川島雅樹先生

#### ②いびきと睡眠時無呼吸症候群

鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 宮下圭一先生

#### ③スギ花粉症の新しい治療法－舌下免疫療法とは？

鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 教授 黒野祐一先生

今回は、においのしくみと嗅覚障害について取り上げ、睡眠時無呼吸症候群における鼻疾患治療の有用性についても、できるだけわかりやすく理解してもらえるように心がけた。またアレルギー性鼻炎の新しい治療法では、花粉症の病態から舌下免疫療法の話まで最新の話題についても提供を行った。

### 4. 第8回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座

日時：平成27年3月7日（土）13：00～14：10

場所：鹿児島市勤労者交流センター

宮之原 郁 代

#### 講演内容

#### 1. きこえのしくみと難聴

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 宮下圭一先生

#### 2. きこえを取り戻す－補聴器と人工内耳－

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 川島雅樹先生

3. スギ花粉症治療の新たな選択肢－舌下免疫療法はどんな治療？－

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 宮之原郁代先生

**開催後のアンケート結果**

参加人数32名 回収数 26枚

30代 1名 40代 2名 50代 0名

60代 7名 70代 12名 80代 4名

(女性 16名 男性 7名 無回答 3名)

1. どのようにして、今回の講座について知りましたか。

新聞 4名 病院内のポスター 2名 友人・知人からの紹介 3名

案内のハガキ 14名 市電広告 1名 幼稚園の案内 1名 無回答 1名

2. どの講演を目的に受講しましたか。※重複回答あり

きこえのしくみと難聴 19名 補聴器と人工内耳 9名 スギ花粉症 10名

3. 講演を聴こうと思ったきっかけは？※重複回答あり

花粉症だから 4名 聞こえに不自由を感じているから 14名

自分の健康管理 14名 家族の病気を心配して 5名

今後の参考に。兄弟が難聴になっているから。

4. 講演内容はいかがでしたか。

わかりやすかった 22名 無回答 4名

5. 講演時間、日程についてお聞きします。

講演時間： もっと長く 2名 ちょうどよい 19名 無回答 5名

日 程： 土曜午前が良い 2名 土曜午後が良い 16名

日曜午前が良い 1名 日曜午後が良い 1名 無回答 6名

6. これまでに参加されたことはありますか？

はじめて 11名 2回目 3名 3回目以上 12名

平成27年1月17日（土）、城山観光ホテルにて、「鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会総会ならびに学術講演会」が開催された。同門会総会の参加者は、同門会会員総数112名中43名（委任状45名）で山本誠会長の司会で進められた。総会では、平成26年度の会計報告および平成27年度の事業計画、予算案について報告され、承認された。また顧問の黒野より、決算の「予備費」にはアレルギー性鼻炎のQOLオンラインアンケートシステム構築費用が含まれており、今後舌下免疫療法のフォローアップのためのシステムにも応用可能であることが報告された。また平成27年度の10月ごろから大学研究棟の耐震改修工事が始まり、医局がプレハブ棟に一時移転することについて案内があった。平成28年度に第78回耳鼻咽喉科臨床学会を鹿児島大学主催で行う予定であることが報告された。前年繰越金が年々減少傾向にあり、会長の山本より現状での会費の増額は厳しいことから、開催費用の圧縮目的に次年度から同門会開催場所の変更を行うことの提案があり、了承された。

特別講演は、佐賀大学耳鼻咽喉科頭頸部外科の倉富勇一郎先生にご講演頂いた。舌癌の外科的治療および予後を左右する病理所見などについて、最新の話題に触れることができ、とてもわかりやすく興味深いものであった。

### 一般演題（18:30～19:30）

座長 松崎 勉 先生（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）

#### 1. 「上咽頭に発生した多形腺腫の一例」

宮本 佑美 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科）

#### 2. 「眼窩先端症候群を呈した蝶形骨洞アスペルギルス症例」

牧瀬 高穂 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科）

#### 3. 「鼻中隔過誤腫の一例」

積山 幸祐 先生（鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科）

座長 花牟禮 豊 先生（鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科）

#### 4. 「迷路気腫を伴ったアブミ骨陥入例」

西元 謙吾 先生（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）

#### 5. 「鼻アレルギー患者ならびに医師を対象とした鼻噴霧用デキサメタゾンシベシル酸エステル粉末製剤の使用印象調査」

内菌 明裕 先生（せんだい耳鼻咽喉科）

特別講演 (19:30~20:30)

座長 黒野 祐一 先生 (鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授)  
「舌癌の浸潤と外科的治療」

佐賀大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 倉富勇一郎 先生



鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 平成27年1月17日 於 城山観光ホテル

## 1. 学校保健（統計報告）

平成25年4月から6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学校検診を行った。

### 【対象地域】

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，松山町（志布志市），財部町（曾於市），大崎町（曾於市），輝北町（鹿屋市），屋久島町

### 【受診者数】

小学生 2,272名

中学生 1,038名

### 【対象疾患】

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，扁桃肥大  
以上9疾患

### 【結果】

疾患別の有病率については、ここ数年の傾向どおり鼻アレルギーが圧倒的に多く、耳垢栓塞、慢性副鼻腔炎が続いた。例年通り中学生に対して小学生の有病率が高い結果であった。

#### ★鼻アレルギー

小学生 193名 8.5%

中学生 57名 5.5%

#### ★耳垢栓塞

小学生 43名 1.8%

中学生 8名 0.7%

#### ★慢性副鼻腔炎

小学生 47名 2.0%

中学生 3名 0.3%

## 難聴・耳鳴・めまい外来

宮之原 郁 代

いつも貴重な症例をご紹介頂きありがとうございます。

新生児から高齢者まで幅広い年齢層の聴覚，平衡覚に関する病態について，柔軟に対処していけるよう日々研鑽を重ねております。小児難聴の精査，人工内耳候補者選定，術後の（リ）ハビリテーション，補聴器フィッティング，TRT療法などを中心に診療しております。

小児難聴に関しては，施設の特性上，ハイリスク症例の難聴精査の依頼が多かったのですが，最近は新スク後の精査目的で来院する患者さんが微増してきています（2013年15名，2014年23名）。聴力レベルの評価はもとより，原因検索として遺伝子診断，CT/MRIによる画像診断を組み合わせて行っています。先天性難聴の遺伝子検査については，成人の難聴症例についての問い合わせや精査依頼も多くあり，病歴聴取とともに遺伝カウンセリングを行い個別に対応しています。

めまい症例については，高齢者のめまい症例の紹介が増加傾向です。全体的には，良性発作性頭位めまい症を除けば末梢前庭に起因するめまいは少ない印象です。神経内科，脳外科，循環器内科ならびにかかりつけの内科を回って紹介受診される患者さんも多くみられます。この先ますます（超）高齢化社会が進む昨今，高齢者のめまい病態への理解が，日常診療でますます重要になると思われます。精査後は紹介元の先生方にお返しして，連携を図っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(平成27年3月現在)

### 文部科学省科学研究費

#### 基盤研究 (C)

ホスホリルコリンを用いた多機能性粘膜ワクチンの開発

研究代表者 黒野 祐一

#### 若手研究 (B)

Phosphorylcholine 経皮投与による粘膜免疫応答の誘導と制御機構の解明

研究代表者 永野 広海

### 厚生労働省科学研究費補助金

免疫療法による花粉症予防と免疫療法のガイドライン作成にむけた研究

主任研究者 岡本 美孝 (千葉大学 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学)

分担研究者 黒野 祐一



## 1. 原 著

- (1) 吉福孝介, 西元謙吾, 平瀬博之, 松崎 勉  
下咽頭癌の発見に Valsalva 法が有用であった2例  
耳鼻と臨床 60(2): 60-66, 2014
- (2) 吉福孝介, 西元謙吾, 川俣洋生, 金澤絵莉, 高濱哲也, 松崎 勉  
出血を繰り返す中咽頭癌後発リンパ節転移症例に対する Mohs 軟膏の有用性  
耳鼻と臨床 60(2): 67-71, 2014
- (3) 川島雅樹, 井内寛之, 大堀純一郎, 黒野祐一  
扁桃周囲膿瘍重症例に対する即時膿瘍扁桃摘出術の有用性  
日本口腔・咽頭科学会 (27)1: 73-79, 2014
- (4) 永野広海, 井内寛之, 地村友宏, 川島雅樹, 黒野祐一  
ワルダイエル咽頭輪に腫瘤形成をきたしたリンパ腫型 ATL 例  
耳鼻臨床 107(6): 469-473, 2014
- (5) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 野元三治, 花田修一, 鶴丸浩士  
鼻 NK/T 細胞リンパ腫の3例  
耳鼻と臨床 60(3): 92-98, 2014
- (6) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 野元三治, 出口浩二  
トキソプラズマ性頸部リンパ節炎の1例  
耳鼻と臨床 60(4): 143-148, 2014
- (7) 阪上雅史, 黒野祐一, 井之口 昭, 武田憲昭, 愛場庸雅, 任 智美, 池田 稔  
味覚障害患者に対する24週間の亜鉛内服治療における味覚機能検査と自覚症状の経時的推移および効果予測因子  
日本耳鼻咽喉科学会会報 117(8): 1093-1101, 2014

- (8) 宮之原郁代, 宮下圭一, 原田みずえ, 間世田佳子, 井内寛之, 馬越瑞夫, 川畠雅樹,  
黒野祐一  
新たに開発したオンラインシステムを用いたスギ花粉症患者 QOL 調査の試み  
- 症例登録の工夫と今後の展望 -  
耳鼻と臨床 61(2): 41-48, 2015
- (9) Mori K, Miyanohara I, Moteki H, Nishio SY, Kurono Y, Usami SI.  
Novel Mutations in GRXCR1 at DFNB25 Lead to Progressive Hearing Loss and  
Dizziness.  
Annals of Otology, Rhinology & Laryngology.124(5S):129-134, 2015
- (10) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉  
喉頭麻痺を伴った喉頭帯状疱疹の 1 例  
耳鼻と臨床 60(5): 168-172, 2014
- (11) 井内寛之, 黒野祐一  
硬口蓋原発の悪性筋上皮腫例  
耳鼻臨床 107(11): 919-925, 2014
- (12) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉  
耳介軟骨骨折を合併した亜急性耳介血腫症例  
頭頸部外科 24(2): 131-135, 2014
- (13) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎勉, 野元三治  
鼻翼に発生したグロームス腫瘍の 1 症例  
頭頸部外科 24(2): 143-147, 2014
- (14) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉  
顎関節症により両側口蓋扁桃摘出術施行時の術野展開が困難であった 1 症例  
日本耳鼻咽喉科学会会報 117(10): 1264-1269, 2014
- (15) 積山幸祐, 黒野祐一  
鼻腔放線菌症例  
日本鼻科学会会誌 53(4): 566-571, 2014

- (16) 馬越瑞夫, 永野広海, 黒野祐一  
内視鏡により摘出した鼻腔 Glomangiopericytoma 例  
耳鼻臨床 108(2): 109-113, 2015

## 2. 総 説

- (1) 吉福孝介  
特集・みみ・はな・のどの局所薬物療法  
喉頭急性炎症に対する局所薬物療法  
MB ENT 168: 52-56, 2014
- (2) 黒野祐一  
特集・こんなときどうする  
鼻漏・後鼻漏を訴えるが副鼻腔 X線撮影は正常所見！  
JOHNS 30(9): 1204-1206, 2014
- (3) 黒野祐一  
マイクロニードルによるワクチンの免疫誘導の可能性  
注射剤・経口製剤に代わる新しい薬剤投与デバイスの開発  
(株)技術情報協会 23-25, 2014
- (4) 黒野祐一  
感染症 update II 章 主要な臓器感染症 D. 耳鼻咽喉・頭頸部感染症  
急性上気道炎, 急性喉頭蓋炎  
日本医師会雑誌 143 S(2): 114-115, 2014
- (5) 吉福孝介  
私が愛用する手術器具121 喉頭蓋乱切刃  
JOHNS 30(1): 121-123, 2014
- (6) 吉福孝介  
特集・こんなときどうする  
鼻腔内に易出血性の大きな腫瘍がある！  
JOHNS 30(9): 1214-1216, 2014

## (7) 永野広海, 黒野祐一

特集・よくわかる鼻副鼻腔手術  
手術の後に 術後鼻副鼻腔の処置  
JOHNS 31(2): 237-239, 2015

### 3. 国内学会発表

## (1) 特別講演

第11回北海道耳鼻咽喉科セミナー 平成26年4月12日(札幌市)  
「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

島根県地方部会総会・学術講演会 平成26年4月20日(松江市)  
「急性上気道感染症の診療における留意点」

黒野祐一

九州大学医学部臨床講義 平成26年4月7日(福岡市)  
「上気道の免疫・アレルギー疾患」

黒野祐一

熊本大学医学部4年生講義 平成26年5月28日(熊本市)  
「上気道感染・アレルギーと粘膜免疫」

黒野祐一

第3回鹿児島頭頸部癌化学療法研究会 平成26年8月28日(鹿児島市)  
「局所進行頭頸部癌に対する治療戦略」

宮下圭一

平成26年度 菊友会学術講演会 平成26年11月8日(東京都)  
「急性上気道感染症の診療における留意点」

黒野祐一

第15回やまぐち小児医療セミナー 平成26年11月9日（山口市）

「鼻を見ずに、鼻を診る」

黒野祐一

第151回日本耳鼻咽喉科秋田県地方部会学術講演会 平成26年12月7日（秋田市）

「急性上気道感染症の診療における留意点」

黒野祐一

第20回石川県鼻アレルギー研究会 平成27年1月22日（金沢市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

2015 JOTO 鼻アレルギー講演会 平成27年2月3日（東京都）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉の重要性～患者 QOL の向上を目指して～」

黒野祐一

第22回西宮市耳鼻科医会総会学術講演会 平成27年2月14日（芦屋市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

港区耳鼻咽喉科医会講演会 平成27年2月18日（東京都）

「花粉症の診療における留意点－患者さんの QOL 向上のために－」

黒野祐一

第23回九州アレルギー講習会 -2015 福岡- 平成27年2月21日（福岡市）

「耳鼻科のアレルギー疾患における最近の話題－花粉症の病態・治療の進歩－」

黒野祐一

## (2) シンポジウム

Asia Oceania First

13<sup>th</sup> ASIA-OCEANIA ORL-HNS CONGRESS

Taipei, Taiwan March 19-22, 2015

「The Application of Mucosal Immunization with Phosphorylcholine for Preventing Upper Airway Infection and Allergic Rhinitis」

Y.Kurono

「New Aspects of Macrolide and its Application for Upper Airway Diseases」

Y.Kurono

### (3) ランチョンセミナー

第9回日本小児耳鼻咽喉科学会 平成26年6月7日（浜松市）

「小児アレルギー性鼻炎の「始まり」を考える」

黒野祐一

第76回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 平成26年6月26日～27日（盛岡市）

「慢性上気道感染症に対するマクロライド療法の位置づけ－その現状と展望－」

黒野祐一

### (4) 一般

第33回気道分泌研究会 平成26年4月19日（津市）

「ヒト中耳粘膜上皮におけるムチン産生とマクロライドの効果」

原田みずえ, 黒野祐一

第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 平成26年5月9日～11日（京都）

「郵送法を用いた2011年スギ花粉飛散ピーク期における QOL 調査の検討」

宮之原郁代, 積山幸祐, 牧瀬高穂, 原田みずえ, 黒野祐一

第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成26年5月14日～17日（福岡市）

「蝸牛神経形成不全の臨床像と特徴」

宮之原郁代, 原田みずえ, 川畠雅樹, 黒野祐一

「下咽頭表在癌に対する経口切除術後の再発例への対応」

宮下圭一, 馬越瑞夫, 黒野祐一

第9回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成26年6月6日～7日（浜松市）

「小児鼻性球後視神経炎の1例」

地村友宏, 黒野祐一

第76回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会ランチョンセミナー

平成26年6月26日～27日（盛岡市）

「咽頭喉頭結核症の1例」

積山幸祐，黒野祐一

「ワルダイエル咽頭輪に腫瘤形成をきたしたリンパ腫型ATLの1例」

永野広海，井内寛之，地村友宏，川島雅樹，黒野祐一

「神経線維腫症1型に合併した器質化血栓を伴う静脈瘤の1例」

井内寛之，永野広海，黒野祐一

第38日本頭頸部癌学会 平成26年6月12日～13日（東京都）

「中咽頭原発小細胞癌の1例」

井内寛之，黒野祐一

第21回マクロライド新作用研究会 平成26年7月18日～19日（東京都）

「ヒト中耳粘膜上皮のインフルエンザ菌刺激に対するマクロライドの作用」

原田みずえ，黒野祐一

第2回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会ならびに学術講演会

平成26年9月5日～6日（東京都）

「頭蓋底骨髓炎の2例」

川島雅樹，井内寛之，永野広海，宮下圭一，黒野祐一

第27回日本口腔・咽頭科学会総会 学術講演会 平成26年9月11日～12日（札幌市）

「ステロイド薬追加投与によるセツキシマブ急性有害事象回避の試み」

永野広海，牧瀬高穂，川島雅樹，地村友宏，黒野祐一

「高齢者の舌癌に対するPGAシートによる術創被覆術の有用性」

牧瀬高穂，黒野祐一

第53回日本鼻科学会総会ならびに学術講演会 平成26年9月25日～27日（大阪市）

「小児鼻腔内逆生菌の2例」

積山幸祐，黒野祐一

「培養ヒト鼻粘膜上皮に対する塩化ベンザルコニウムの影響」

川島雅樹，黒野祐一



「CTにより偶然発見された下鼻甲介原発骨内海綿状血管腫例」

牧瀬高穂, 黒野祐一

「内視鏡下鼻内手術で摘出した鼻腔 Glomangiopericytoma の一例」

馬越瑞夫, 永野広海, 黒野祐一

第24回日本耳科学会総会・学術講演会 平成26年10月15日～18日（新潟市）

「NOG 遺伝子変異が原因と考えられた両側混合性難聴の一例」

宮之原郁代, 原田みずえ, 黒野祐一, 宇佐美真一

「ヒト中耳粘膜上皮におけるムチン産生に対するマクロライドの効果」

原田みずえ, 黒野祐一

第66回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

平成26年11月13日～14日（高知市）

「喉頭癌気管孔再発時に活動性肺結核を合併した1例」

地村友宏, 永野広海, 川島雅樹, 黒野祐一

第8回九州頭頸部癌フォーラム 平成26年11月29日（福岡市）

「止血に難渋した頸部腫瘍例」

井内寛之, 永野広海, 黒野祐一

第25回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

平成27年1月29日～30日（大阪市）

「鼻腔内に再発した硬口蓋原発の筋上皮腫の1例」

川島雅樹, 井内寛之, 宮下圭一, 黒野祐一

「上咽頭に発生した多形腺腫の1例」

宮本佑美, 永野広海, 黒野祐一

第33回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成27年2月26日～28日（東京都）

「Phosphorylcholine 経鼻投与によるアレルギー反応抑制効果」

宮下圭一, 黒野祐一

「ヒアルロン酸マイクロニードルを用いた経皮免疫による粘膜免疫応答」

永野広海, 黒野祐一

#### 4. 国際学会発表

15<sup>th</sup> KOREA JAPAN Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery Seoul, Korea April 3-5, 2014

〔Clinical Aspects of Cochlear Nerve Deficiency in Children〕

**I.Miyanohara, M. Kawabata, K. Miyashita, M. Harada, Y. Kurono**

〔Clinical Classification of Peritonsillar Abscess and the Indication of Immediate Abscess Tonsillectomy〕

**M. Kawabata, H. Iuchi, Y. Kurono**

18<sup>th</sup> WCBIP/WCBE World Congress Kyoto, Japan April 13-16, 2014

〔Management for the recurrence of early hypopharyngeal carcinoma after transoral resection〕

**K. Miyashita, Y. Kurono**

25<sup>th</sup> Congress of the European Rhinology Society in conjunction with

32<sup>th</sup> International Symposium of Infection & Allergy of the Nose

Amsterdam, The Netherlands June 22-26, 2014

〔Phosphorylcholine Suppressed the Allergic Rhinitis in Mice〕

**K.Miyashita, Y.Kurono**

〔Effects of Benzalkonium Chloride on Cultured Human Nasal Epithelial Cells〕

**M.Kawabata, Y.Kurono**

Asia Oceania First

13<sup>th</sup> ASIA-OCEANIA ORL-HNS CONGRESS Taipei, Taiwan March 19-22, 2015

〔Presence of keratin-specific antibody-forming cells in palatine tonsils of patients with pustulosis palmaris et plantaris (PPP) and its correlation with prognosis after tonsillectomy〕

**Y.Tanimoto, N.Tanaka, Y.Tanimoto, Y.Kurono**

〔Relationship between CT image findings and clinical features of peritonsillar abscess〕

**M.Umakoshi, M.Kawabata, Y.Kurono**

## 5. 学位論文要旨

### 医論 総論第14号

**The presence of keratin-specific antibody forming cells in palatine tonsils of patients with pustulosis palmaris et plantaris (PPP) and its correlation with prognosis after tonsillectomy**  
掌蹠膿疱症患者の口蓋扁桃におけるケラチン特異的抗体産生細胞の存在と口蓋扁桃摘出術後の予後との関連性

谷 本 洋一郎

#### 【序論および目的】

掌蹠膿疱症（以下 PPP）は手掌，足蹠に局限して増悪，寛解を繰り返す無菌性小膿疱を生じ，次いで発赤と角化性局面をきたす難治性の慢性皮膚疾患である。習慣性扁桃炎の再燃に伴って PPP の悪化をみることが多く，口蓋扁桃摘出術が皮膚病変の改善に有効である。この PPP に対する口蓋扁桃摘出術の有効性はよく認知されているが，全例に著効するわけではない。現在，扁桃誘発試験および打消し試験が手術の有効性の予測に用いられているが，これらの試験の信頼性については現在も議論されているところであり，術前にその効果をより正確に予測できる検査診断法の確立が望まれている。

PPP 症例では血清中のケラチン特異的抗体価が高値であり，口蓋扁桃摘出術により低下することが報告されている。これはケラチン特異的抗体が口蓋扁桃で産生されている可能性を示しており，ケラチン特異的免疫応答が PPP の病態に関与していると考えられている。しかし，PPP の口蓋扁桃においてケラチン特異的免疫応答が亢進しているのか，またそれに伴って血清中にケラチン特異的抗体が産生されているかについては，いまだ明らかにされていない。そこで，我々は口蓋扁桃におけるケラチン特異的免疫応答が PPP の発生に果たす役割を検討する目的で本研究を行った。

#### 【材料および方法】

本研究では PPP 患者18例および対照として慢性扁桃炎患者10例を対象とした。PPP 症例は男性 8 例，女性10例，年齢は19歳から52歳（中央値34歳）で全例が手術までの PPP の病歴が1年未満であった。PPP の診断は当院皮膚科医が皮膚病変の診察および生検にて確定した。慢性扁桃炎症例は男性 6 例，女性 4 例，年齢は18歳から48歳（中央値32歳）でこれらの患者は2年以上にわたり，年に3回以上の急性扁桃炎を繰り返していた。これら全28例に対して，2001年4月から2004年3月の間に鹿児島大学病院にて両側口蓋扁桃摘出術を施行した。

方法は、扁桃単核球細胞 (tonsillar mononuclear cell, TNMC) と末梢血単核球細胞 (peripheral blood mononuclear cell, PBMC) を用いて、口蓋扁桃および末梢血中にケラチン特異的抗体産生細胞 (antibody forming cell, AFC) が存在するかどうかを確認した。さらに、これらの細胞数と血清中のケラチン特異的抗体価の相関を観察し、口蓋扁桃におけるケラチン特異的免疫応答が血清中の抗体活性に及ぼす影響を検討した。また、口蓋扁桃および末梢血中のケラチン特異的免疫応答と口蓋扁桃摘出術後の経過を比較し、ケラチン特異的免疫応答が口蓋扁桃摘出術の予後予測因子となりうるかを検討した。予後については、術後6カ月の時点で、皮膚科医が評価し、過去の報告に基づき、完治、著効、軽快、不変の4段階に分類し、完治または著効と評価した症例を改善群、軽快または不変と評価した症例を非改善群と分類した。

### 【結 果】

PPP 症例では、口蓋扁桃のケラチン特異的 IgM-AFC、IgG-AFC および末梢血のケラチン特異的 IgG-AFC の数が有意に上昇していた。また、血清中のケラチン特異的 IgM、IgG 抗体価も対照群と比較して PPP 群で有意に高値を示した。さらに、末梢血のケラチン特異的 IgG-AFC 数は、口蓋扁桃のケラチン特異的 IgG-AFC 数および血清中のケラチン特異的 IgG 抗体価と正の相関が認められた。

口蓋扁桃摘出術の予後との比較では、手術時に採取した口蓋扁桃と末梢血中のケラチン特異的 AFC 数は、いずれも非改善群より改善群でケラチン特異的 IgM-AFC 数、IgG-AFC 数が有意に高値で、血清抗体価については、ケラチン特異的 IgG 抗体価が非改善群より改善群で高値であった。さらに、術後6カ月で、末梢血のケラチン特異的 IgG-AFC 数、IgM-AFC 数および血清中のケラチン特異的 IgG 抗体価は有意に減少しており、その減少は改善群できわめて顕著であった。

### 【考察及び結論】

本研究によって口蓋扁桃および末梢血中に、ケラチン特異的 IgM-AFC、IgG-AFC、IgA-AFC が存在し、PPP 群では対照群と比較してその数が多いことが明らかになり、PPP ではなんらかの機序により口蓋扁桃におけるケラチン特異的免疫応答が亢進していることが推測された。また口蓋扁桃のケラチン特異的 IgG-AFC 数は末梢血のそれと有意に相関し、さらに末梢血のケラチン特異的 IgG-AFC 数は血清中のケラチン特異的 IgG 抗体価とも相関したことから、口蓋扁桃で産生されたケラチン特異的 IgG-AFC が末梢血中を循環し、血清中のケラチン特異的抗体を増加させていると考えられた。ただし、このような有意な相関は他の免疫グロブリンでは認められなかったことから、PPP の口蓋扁桃ではケラチン特異的 IgG 応答が優位であり、ケラチン特異的 IgM 抗体など

は、口蓋扁桃以外の例えば皮膚など他の器官で産生されている可能性が示唆された。

口蓋扁桃摘出術との関連については、PPP では血清中のケラチン特異的抗体価が手術後に低下すること、そして皮膚病変の予後と相関することが既に報告されている。本研究では血清中のケラチン特異的抗体価に加えてケラチン特異的 AFC 数についても検討し、手術有効例では無効例よりも口蓋扁桃および末梢血中のケラチン特異的免疫応答が有意に亢進していることが明らかになった。さらに手術有効例では手術後6カ月で末梢血中のケラチン特異的免疫応答、なかでも IgG 応答が有意に低下しており、このことから、口蓋扁桃が末梢血中のケラチン特異的 IgG-AFC の主たる産生部位であり、これが PPP の病態に関与していることが示唆された。

以上のことから、口蓋扁桃におけるケラチン特異的免疫応答は PPP の病態に重要な役割を果たしており、また口蓋扁桃摘出術の予後予測因子になり得ると考えられた。

Acta Oto-Laryngologica, 134(1) 79 - 87 2014

### 1. 医局人事（平成27年4月現在）

教 授	黒野祐一
講 師	大堀純一郎（海外留学中）
助 教	原田みずえ，宮下圭一，永野広海，川島雅樹，牧瀬高穂
医 員	問世田佳子，馬越瑞夫，井内寛之，地村友宏，宮本佑美

医 局 長	永野広海
外来医長	原田みずえ
病棟医長	牧瀬高穂

### 関連病院（平成27年4月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾，吉福孝介
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
鹿児島生協病院	積山幸祐
藤元総合病院	森園健介
あまたつクリニック	谷本洋一郎
鹿児島市立病院	高木 実

## 2. 学会報告

### 第33回気道分泌研究会

原 田 みずえ

平成26年4月19日 琵琶湖のほとり滋賀県大津市で開催された第33回気道分泌研究会に、参加させていただきました。過去2回は、鼻粘膜細胞を用いた研究の発表をさせていただきましたが、今回は「ヒト中耳粘膜上皮におけるムチン産生とマクロライドの効果」と題して、中耳粘膜上皮細胞を用いた研究の発表をさせていただきました。ムチンである MUC5AC と MUC1 がヒト中耳粘膜上皮細胞から産生されるかどうか、マクロライドを入れると MUC5AC, MUC1 はどうなるのか、調べました。結果、MUC5AC はほとんど発現が認められず、MUC1 の発現が見られました。そこで、マクロライドを入れると、MUC1 の発現は抑制されるのではないかと予想していたのですが、予想に反し、マクロライドで MUC1 の発現が亢進しました。MUC1 には炎症性サイトカイン IL-8 や TNF  $\alpha$  の産生を抑えるという報告がありますので、マクロライドは MUC1 を介して、炎症性サイトカインをさらに抑制する効果があるのではないという考察に至りました。どのような機序でマクロライドが MUC1 の発現を亢進させるのか、いまだにわかりませんので、この研究を今も継続しているところです。

実は、この発表3日前に、パソコンが全く起動しなくなるという恐ろしいハプニングが起きました。その数日前にも同じようなことが起きたのですが、すぐに回復したので、今度もすぐに回復するだろうと思っていましたが、何度も電源を入れ直しても起動しませんでした。一番最近のスライドを他に保存していなかったもので、頭が真っ白になり、すぐに電気屋さんを持ち込んで修理を頼んだのですが、データを取り出すのに1カ月はかかると言われ、ショックで頭がパニックになってしまいました。しかし、こんなことでキャンセルするわけにもいけないので、他に残っていたデータを使って毎日徹夜で、出発ギリギリまで作ってやっと発表することができました。無事になんとか終わったことと、彦根城に行って、彦ニャンをみて帰ってきたことしか覚えていません。すみません・・・。みなさん、私のようにならないよう、気を付けてください。

## 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会

2014年5月9～11日

国立京都国際会館, 京都

宮之原 郁 代

「アレルギー克服への新たな挑戦～研究と診療の Reciprocal Interaction～」というテーマで、春風薫る5月の京都で開催されました。全体的には最近のトピックである、「経皮感作とアレルギー」、「スキンケアでアトピー性皮膚炎の発症予防」について話題や演題がとて多かったですと感じました。またこれまで、年2回の開催であったのですが、2015年から年1回の開催になるため基礎系の話題も多く盛り込まれており、シンポジウム「アレルギーにおける自然免疫応答」では自然免疫応答に關与する IL-33などの話題が提供されました。私は、「郵送法を用いた2011年スギ花粉飛散ピーク期における QOL 調査の検討」のタイトルでポスター発表しました。

京都に訪れたときは、朝のお参りをすることにしています。ひとつは、人混みが苦手ということもあるのですが、朝のお寺は独特の異次元空間があるように感じます。まず清水寺に7時前に出かけていきます。檀家の方とお坊さんが朝のお勤めをしていて、観光客はほとんどいません。お参りして緑の木々の中を散策していると、気持ちもすがすがしくなる感じです。遠くに見える京都の街並みも好きな風景です。そのあと、三十三間堂に移動して（8時オープン）、お参り。ほとんど人がいないお堂の中は、昼間の喧騒からは想像できない空間です。その後、会場に移動すると大体9時半ごろからは学会参加できます。普段は、朝が弱く苦勞していますが、京都はやはり特別です。

## 第115回 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

2014年5月14日～17日

ヒルトン福岡シーホーク, 福岡

宮之原 郁 代

今回、福岡での開催ということもあり、鹿児島からもたくさんの先生方が参加されたようです。今更ながらですが、新幹線で1時間ちょっとで行き来できるところで開催されることは大変うれしいことです。

宿題報告は、長崎大学の高橋晴雄教授の「換気能から見た中耳疾患の病態と治療」と千葉大学の岡本美孝教授の「上気道粘膜の免疫応答とその治療応用」で、いずれも膨大



な基礎、臨床データをもとにした素晴らしいご報告でした。

舌下免疫療法については、2014年秋に保険収載され、今年ファーストシーズンを迎えました。当科もこれまでに臨床試験に参加させて頂いていますが、今後どんな患者さんが、この治療を選択し有効性や安全性がどうであったか、モニタリングしていく必要があると思っています。

普段さほど接することがないような疾患やテーマでも、効率よく情報収集できるので、臨床セミナー、ランチョンセミナーは時間が許す限り参加しました。私は、画像診断に興味を持っていて、「難聴の画像診断」は、研究テーマの一つです。学会最終日の内藤泰先生のセミナー「側頭骨の画像診断」は楽しく受講しました。先生の著書「画像で見る耳の診断と治療 小児編」もあわせて購入しました。英語版がいいかなと思ったのですが、書店ではプラスチックパッケージになっていて、中身が確認できなかったため・・・とりあえず日本語版にしました。

懇親会では、久しぶりに河野もと子先生にお会いでき懐かしかったです。お元気そうで何よりでした。

## 第9回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

2014年6月6日～7日

地 村 友 宏

今回の小児耳鼻咽喉科学会は浜松医科大学主催（峯田周幸会長）にて開催されました。今回は臨床実習生の灰床君も参加してくれました。まず黒野教授がセミナーで「小児アレルギー性鼻炎の“始まり”を考える」藤澤隆夫先生、を担当されました。ほかには守本倫子先生の「小児の気道狭窄」、飯野ゆき子先生の「小児中耳炎に対する外科的治療」などが興味深かったです。ランチョンセミナーではうなぎ弁当があるとのことで行列が出来、僕は出遅れたために、getできませんでした。自分の一般口演は「小児球後視神経炎例」（座長、春名眞一先生）を発表し、自治医大の市村先生からご質問をいただきました。小児の学会らしく、小児難聴、遺伝性疾患や学校保健に関する発表が多くみられ、日頃手薄になりがちな分野の知識を得ることができました。

## 第76回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会

井内寛之

平成26年6月26日から6月27日に、第76回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会ランチョンセミナーが岩手盛岡で開催されました。大学からは黒野教授、積山先生、永野先生、井内で参加しました。黒野教授はランチョンセミナー4「慢性上気道感染症に対するマクロライド療法の位置づけ—その現状と展望—」、積山先生は「咽喉頭結核の1例」、永野先生は「ワルダイエル咽頭輪に腫瘍形成をきたしたリンパ腫型ATLの1例」、井内は「神経線維腫症1型に合併した器質化血栓を伴う静脈瘤の1例」について発表しました。咽頭皮膚瘻に咽頭チューブを使用した例など、瘻孔閉鎖について様々な工夫がされていました。懇親会では、わんこそば大会が開催され井内に参加しましたが、惨敗をきしてしまいました。盛岡駅前で食した冷麺は最高に美味しかったです。

## 第38回頭頸部癌学会

井内寛之

平成26年6月11日から6月13日に、第38回頭頸部癌学会が東京有明で開催されました。大学からは井内に参加しました。井内は「中咽頭原発小細胞癌」について、発表を行いました。6月11日は教育セミナーに参加しましたが、昨年に引き続き会場が満員の盛況で、頭頸部癌の診療ガイドラインなどの総論から、下咽頭、口腔（舌）について、幅広く講義していただきました。また、頭頸部手術後の咽頭皮膚瘻に対する大胸筋皮弁等の瘻孔閉鎖手技は非常に有用でありました。3日目の昼にはまさかのスコールが降り、びしょ濡れになって帰宅しました。

## 第21回マクロライド新作用研究会

原 田 みずえ

平成26年7月18, 19日 東京飯田橋にて開催された第21回マクロライド新作用研究会に参加させていただきました。

4月の気道分泌研究会で発表した内容をMUC1に絞って発表させていただきました。会場は神楽坂に近かったので、帰りに神楽坂を歩いて、すごく癒されました。

## 第2回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

川 畠 雅 樹

H26年9月5, 6日の2日間、東京の東京ステーションコンファレンスで開催されました。当教室からは、黒野教授と私の2名で参加しました。

多数の興味深い症例報告を拝聴し、耳鼻咽喉科領域感染症が多彩であることをつくづく感じました。また、基礎的・臨床的研究の発表でも私自身の研究のヒントになる発表が拝聴でき大変有意義でした。私は「頭蓋底骨髄炎の2例」という演題に発表しました。頻繁に出くわす疾患ではありませんが、診断・治療とも難渋する疾患であり、深く勉強するよい機会となりました。

特別講演では、奥村康先生のお話を拝聴できました。複雑な免疫の世界を分かりやすく、かつユーモラスにお話しされ、大変感激致しました。ヘルパーT細胞の発見にまつわるお話に特に感銘を受けました。学会が終わるや否や早速、東京駅の本屋で奥村先生のご著書を購入し、帰路の機上でユーモラスな内容にニヤニヤ笑いながら拝読させていただきました。時折、スチュワーデスの視線を気にしつつ。是非、皆さんもご一読下さい。

## 第27回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会

牧瀬 高穂

北海道札幌市で行われた第27回日本口腔・咽頭科学会総会 学術講演会に、黒野教授、永野先生、私の3人で参加してまいりました。記録的大雨に見舞われた北海道地方は、学会初日の朝方からテレビや携帯電話の特別警報が鳴りやまず（テレビは自動で電源が入り、携帯電話はマナーモードでも音が出る！）、交通の乱れで参加者が集まらない、波乱の幕開けとなりました。私は「高齢者の舌癌に対するPGAシートによる術創被覆術の有用性」の演題で発表をさせていただき、たくさんの貴重な意見をいただくことができ、大変有意義な発表となりました。夜は学会会場近くのビール園でジンギスカンを食し、これまた有意義な時間となりました。

## 第53回日本鼻科学会総会・学術集会

馬越 瑞夫

平成26年9月25日から27日に開催された第53回鼻科学会総会・学術集会に、黒野教授、川畠先生、牧瀬先生と共に参加させていただきました。黒野教授は、臨床シンポジウム「好酸球性副鼻腔炎の臨床最前線」で司会の労をとられ、いつも以上に生き生きとしておられ、改めて畏敬の念を抱いた次第です。特別企画「鼻科学のLegendに聞く」や海外招聘講演等も非常に興味深いものでした。川畠先生は「培養ヒト鼻粘膜上皮に対する塩化ベンザルコニウムの影響」、牧瀬先生は「CTにより偶然発見された下鼻甲介原発骨内海綿状血管腫例」で発表されました。私は「内視鏡下鼻内手術で摘出した鼻腔Glomangiopericytomaの一例」で口演発表しました。久々の学会発表で大いに緊張し、場違い感もあり、また年々スーツがきつくなった窮屈さも感じつつ…、おなか一杯、といった感じでした。今回の学会参加で受けた刺激を今後の糧となるよう励みます。なお大阪の喧噪、そして庶民の味、なによりもビールの旨いこと、こちら満喫いたしました。

## 第24回日本耳科学会総会・学術講演会

原 田 みずえ

平成26年10月15～18日 新潟市で開催された第24回日本耳科学会総会・学術講演会に宮之原先生と私2人で参加させていただきました。数年前に新潟で開催された頭頸部外科学会に参加して以来の2回目の新潟でしたので、すごく楽しみでした。宮之原先生は学会2日目の朝に「NOG 遺伝子変異が原因と考えられた両側混合難聴の一例」として症例発表をされ、私は、学会3日目の朝に「ヒト中耳粘膜上皮におけるムチン産生に対するマクロライドの効果」と題して、気道分泌研究会およびマクロライド新作用研究会で発表したものにデータを追加して発表させていただきました。1日目の夜は、宮之原先生お勧めの居酒屋さんで一緒に日本酒を飲んだり、海の幸を頂いたりして、すごく幸せな時間を過ごしました。2日目の夜に懇親会があったのですが、それまでの間、午後少し時間ができたので、越後湯沢のロープウェーに乗ろうと急に思い立ち、新幹線で行ってみました。越後湯沢駅に着いてみると、駅前の道路の沿道に旗を持った人がたくさんいて、知らないおばさんに何事か聞いてみると、クラシックカーのレース (La Festa Mille Miglia 2014) をやっていて、あの近藤真彦も出場しているとのことでした。私は、クラシックカーよりもロープウェーに乗りたかったので、猛ダッシュでロープウェー乗り場まで走って行きましたが、残念なことに、日暮れも近く、10分前に終了していました。しかし、せっかくなので、知らないおばさんから旗をもらって、通り過ぎるクラシックカーにワーワー、キャーキャー言いながら旗を振って、応援することにしました。すると、なんと、「あのねのね」の清水國明をみることができました！その後、近藤真彦のクラシックカーも目の前を通り過ぎましたが、本人かどうかはわかりませんでした。その他、堺正章やクレイジーケンバンドの横山剣なども出場していたようでしたが、会えませんでした。出場者たちは、その日は越後湯沢のホテルに泊まり、翌朝、軽井沢に向けて出発することになっていて、翌朝も来たかったのですが、自分の発表もあるので、諦めました。こんなレースがあるなんて全く知りもせずに、偶然見ることができて、すごくラッキーで楽しかったです。来年も行ってみたいと思いました。

## 第66回日本気管食道科学会総会・学術講演会

2014年11月13日～14日

地 村 友 宏

今回の気管食道科学会が高知大学主催（兵頭政光会長）にて開催されました。まず初日はカールストルツ社共催の有料講習に参加させていただきました。午前は硬性気管支鏡による気道異物摘出術（講師：平林秀樹先生）、午後は経皮的気道確保手技（講師：斎藤康一郎先生）という内容でした。過去に小児ピーナッツ異物にて全身麻酔下に緊急で小児用硬性気管支鏡摘出術を行なったときのことを振り返りながら実習しました。呼吸器科が頻用する軟性気管支鏡のバスケット鉗子のようなものもありますが、まだまだ出番がある手技であり、機械の組み立て方や使用法について習熟しておく必要を感じました。講演では佐藤公則先生の「音声外科手術に必要な喉頭の臨床解剖」や梅野博仁先生の「反回神経麻痺に対する治療」が勉強になりました。私は「喉頭癌気管再発時に活動性肺結核を合併した1例」をポスター発表しました。学術的に興味深い内容が豊富な学会であり、あっという間に時間が過ぎました。

## 第8回九州頭頸部癌フォーラム

永 野 広 海

第8回九州頭頸部癌フォーラムが2014年11月29日当教室の主催で、福岡市スカラエスパシオで開催されました。

我々の教室からは、黒野教授、宮下先生、川島先生、井内先生、私の5名で参加してまいりました。発表はなぜか私の『止血に難渋した頸部腫瘍例』のみでした。一昨年の症例でしたが、同時期に同様の症例を加療された宮崎大学の先生より質問とサジェスチョンをいただき励みになりました。

他大学からも難治や治療の悩む症例の発表の提示がありました。我々も各々症例で悩むことがあります。頭頸部癌の難しさでもあり、それを克服することが喜びではないかと改めて考えました。

福岡が日帰りになってしまったことは少し寂しい気もしますが、

## 第25回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会

宮本 佑美

H27年1月29・30日の2日間、大阪のコングレコンベンションセンターで開催されました。当教室からは、黒野教授と川島先生と現在医学科5年生で耳鼻科に興味のある中村薫乃さんと私の4名で参加しました。川島先生は「鼻腔内に再発した硬口蓋原発の筋上皮腫の1例」、中村さんは新設された学生セッションで「下咽頭癌経口切除後の再発症例についての検討」、私は「上咽頭に発生した多形腺腫の1例」という演題で発表しました。初めての学会発表で準備に戸惑いましたが、当日は色々な分野の教育講演を聞く事ができて大変勉強になり近いうちにまた学会に行きたいと思いました。特に広島大学の竹野幸夫先生の「難治性鼻出血に対する治療」、京都大学の中川隆之先生の「内視鏡下副鼻腔手術－教科書に書けなかったちょっとしたコツ」、手術手技セミナーの「ESSにおける副損傷とその対処法」に感銘を受けました。それぞれ、特発性鼻出血に対する内視鏡下止血術（結紮やクリッピング）のビデオの提示や、鉤状突起の処理の仕方等、マイクロデブリッターによる副損傷の起こる仕組みについて見聞きする事ができました。今回、学生の中村さんを引率しました。懇親会では参加した各大学の学生さんと教授が壇上に呼ばれ、自己紹介をする場面がありました。学会中も道中も楽しんでもらえ、更に耳鼻科に興味を持ってくれた様でしたので、今後勧誘を頑張ろうと思っています！

## 第33回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

永野 広海

第32回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会が2015年2月に順天堂大学耳鼻咽喉科教室（池田勝久教授）の主催で、東京都墨田区で開催されました。

我々の教室からは、黒野教授、宮下先生、私の3名で参加してまいりました。

黒野教授は、モーニングセミナーにおいて池田勝久と網中達也先生の特別講演「耳鼻咽喉科免疫アレルギーのトピックス：プレゼンテーション・スキル教室」の座長をされ、宮下先生は、『Phosphorycholine 経鼻投与によるアレルギー反応抑制効果』を、私は一般演題で『ヒアルロン酸マイクロニードルを用いた経皮免疫による粘膜免疫応答』を発表しました。

特に学会を通して、印象に残ったのは奨励賞応募演題で各大学の若い先生方がアレルギー性鼻炎から頭頸部癌まで多岐にわたる研究成果を発表されておりました。頭の下が



る思いで拝聴させていただきました。早速この分野にも取り組み当教室からも同領域で負けない発表ができればと考えました。

会場は、墨田区東部ホテルレバント東京で開催され、東京スカイツリーも目の前でした。なかなか下町での学会の開催は少なくいい経験になりました。





### 3. 国際学会発表

## 15<sup>th</sup> KOREA JAPAN Joint Meeting

川 島 雅 樹

H26年4月3日～5日にかけて、ソウルで開催されました。

当教室からは、黒野教授、宮之原先生、私の3人で参加しました。

多くの感銘を受ける発表がありましたが、中でも韓国の先生方のロボット支援下経口的咽喉頭癌切除術（TORS: Transoral Robotic Surgery）への積極的な取り組みは印象的でした。エネルギーが伝わり、大変刺激になりました。学会の合間には、韓国料理を堪能できました。お手頃な値段でボリューム・味とも文句なしの内容でした。懇親会の後には、日韓の高名な先生方と一緒に、貴重な時間を楽しく過ごすことができました。ほろ酔いときは英語がよく聞きとれるようになるのか、英語の会話に違和感なく溶け込めました。更には、ホテルに帰ってCNNを見てみると、よく聞き取れるではありませんか。「英語はある時、急に聞き取れるようになる。」と聞いたことがあります。「ついにその時がやってきたのだ！」と興奮しながら眠りにつきました。

翌朝、早速TVをつけて、英語を聞き取れる実感に浸ろうとCNNにチャンネルをあわせたところ・・・なんと・・・なんと・・・全く聞き取れないではありませんか。昨日は、ただ酔っぱらっていただけだったのかあと、一人苦笑していました。

## 18<sup>th</sup> WCBIP/WCBE World Congress

宮 下 圭 一

2014年4月13日～16日まで、京都国際会議場で開催された18<sup>th</sup> WCBIP/WCBE World Congressに参加させて頂きました。春の京都ということもあり、ちょうど桜も満開の時期と重なり、とてもよい季節でした。私はポスター演題での発表で、タイトルは「Managements for the recurrence of early hypopharyngeal carcinoma after transoral resection」で、下咽頭早期癌に対する経口切除症例を30例まとめ、再発症例の詳細とその後の追加治療および経過について発表を行いました。英語でのプレゼンが3分、質疑応答が3分でしたが、ネイティブからの質問もあり、単語の羅列とジェスチャーを駆使して、何とか答えることができ、理解して頂くことができたように思います。やはり英

語で質問や答えができるように日々鍛錬していくことが重要だとしみじみ感じました。現在医局で定期的に行っている抄読会の内容について、質問やその応答を英語で行うのもいいかもしれないと思いました。また会場の前では報道陣やカメラマンが多数来ており、「世界気食もすごいなー」と思っていたら、あとになって、STAP細胞で渦中の小保方さんの共同執筆者として話題の Charles Vacanti 教授（ハーバード大）が4月15日の特別講演にきていたことを知り、びっくりしました。学会で十分に見聞を広げた後は、ちょっとだけ和菓子の老舗めぐり、お寺めぐりなどをして、京都の春を満喫しました。身も心も、そして脳も十分に潤い、明日からの診療や実験に頑張る英気が養われました。

写真は東寺の桜と五重塔です。季節柄あちらこちらに修学旅行生がいっぱいでした。



## 25<sup>th</sup> Congress of the European Rhinology

宮 下 圭 一

2014年6月22日～26日まで、オランダのアムステルダムで開催された ERS/ISIAN に川島先生とともに参加いたしました。私にとって初めての、そしてちゃんとした海外での国際学会ということもあって、万全の態勢で臨んだつもりでした。英会話も少しは練習していったのですが、アムステルダムの税関でパスポートを出した後、「どこに泊ま

るのか？ 滞在期間は？とオランダなまりの英語で質問されました。日ごろから英語慣れしていない私たちは、なんとかつたない英語で答えたものの、怪しまれたのか、別の場所に通され、しばらくよくわからない質問攻めにあってしまいました。

会場はアムステルダム中心にあって、レンガ造りの歴史的建造物でした。川畠先生は、“Effects of benzalkonium chloride on cultured human nasal epithelial cells”というタイトルで、私は“Phosphorylcholine suppresses allergic rhinitis in mice”というタイトルでそれぞれ Free paper session: short presentations というセッションで口演を行いました。鼻に関する基礎研究のセッションで、大多数が日本からの発表でした。Chairperson が J. Mullol というスペイン語なまりの英語を話されるため、質問が聞き取りにくく、まずは質問を理解するのにとても苦労しました。私たちの様子を察して2回目はゆっくりと発音してくれるのですが、スペイン語特有？の語尾が巻き舌のために、やっぱり聞き取ることは不可能でした。同じセッションに鳥根の川内先生や松根先生もいらして、そんな私たちをサポートしてくださり、大変助かりました。英語を理解し、自分の考えを英語で答えるという基本的なことが、とても重要なことだとしみじみと感じた学会でした。夜は右も左もわからない私たちを、事前に黒野先生が取り計らってくださっており、松根先生が製薬会社主催の晩餐会にいっしょに誘ってくださりました。アムステルダム郊外にあるきれいな木々に囲まれたレストランに連れて行って頂き、鳥根大学の川内先生や淵脇先生ご夫妻、山形大学の太田先生とも合流し、シャンパンやワイン、オランダ料理を食べながら、楽しく過ごすことができました。学会期間中は、ゴッホ美術館でのゴッホの自画像やひまわり、アムステルダム国立美術館のレンブラントの夜警、アンネフランクの生家などなど、芸術や歴史を堪能することができ、思い出に残る国際学会の1週間を過ごすことができました。



## 4. 関連病院便り

### 鹿児島医療センター便り

西元 謙吾

平成26年度の鹿児島医療センター耳鼻咽喉科は松崎、西元、吉福と3人体制は維持できて、大きな変化はありませんでした。ただ予想外のことでしたが、平成26年夏から、甕島の航空自衛隊基地に勤務している防衛医科大学出身で、防衛医科大学の耳鼻咽喉科に所属している田所 慎先生が1か月に7～10日間研修に来ていただくこととなり、大いに助かりました。医局も短期間ですが、にぎやかな雰囲気になり少し心の余裕ができました。田所先生は鹿児島医療センターの過密な研修をものともせずについてきていただいているので、この時期は我々も楽しく仕事できています。しかし、平成27年の夏までの期限付きですので、それを思うと少し憂鬱になり、やはり人員が増えることは精神安定にも不可欠だと思知らされます。吉福先生に指導されて、論文作成もしていますのでもうすぐお目見えすることになると思います。できることなら、鹿児島医療センターに残ってくれないかなあ～と妄想する今日この頃です。

さて、以前頭頸部外科のシンポジウムで高齢者・全身合併症の手術が増加している旨の発表をしましたが、最近はそのに加え、痴呆がある（もしくは前段階であったり、かなり疑われている）癌患者が増えている印象があります。そういった症例は、施設に入ったり、老老介護であったりと、疾患そのものの問題だけでないことが多く、治療に影響する要因が多岐にわたり、スタッフと議論するシーンも増えてきています。自己決定ができなかったり、治療しても帰るところがないなど、以前は時々しか遭遇しない症例も最近は当たり前ようになってきました。高齢化社会も極まれりといったところですが、将来もっと増えてくるのは目に見えていますので、家族との十分なコミュニケーションを取りながら対応しています（それでも家族さえいなくて困ることも多々ありますが）。

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院と新病院建設ラッシュを横目に鹿児島医療センターの新病院構想はなかなか日の目を見ません。今後さらに高度化する医療に対応するにはソフト面も必要ですが、やはりハード面の充実が不可欠です。耳鼻咽喉科としても鹿児島医療センターの経営にかなり貢献していると思いますので、かなり障害は多いと思いますが実現することを切に願っています。

昨年度の手術症例は前年より微増といった感じです。大きな事故もなく過ごせたことはスタッフの皆さんの協力があったことだと感謝しています。内容ではほぼ変わりありませんが、耳下腺腫瘍の手術が多くなっており、毎週のように症例がありました。

## 手術件数（手術記録にあるもの）

良性疾患

口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術同時手術も含む）	115例
内視鏡下鼻副鼻腔手術（乳頭腫, devi+subcon 同時手術も含む）	124例
鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲骨切除術	21例
BOF などその他の鼻副鼻腔手術	5例
鼓室形成術	17例
鼓膜形成術	7例
チューブ留置術・アデノイド切除・先天性耳瘻孔など	23例
顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術	2例
耳下腺腫瘍摘出術	50例
顎下腺摘出術・顎下腺腫瘍摘出術	13例
舌下腺摘出術・舌下腺腫瘍摘出術	3例
甲状腺腫瘍摘出術・副甲状腺腫瘍摘出術	10例
頸部腫瘍・嚢胞摘出術	13例
深頸部膿瘍	2例
口腔腫瘍など	10例
喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術	93例
その他（気管切開・リンパ節摘出術・皮弁形成術など）	44例

552例

頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建術あり）	13例
頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建術なし）	32例
頸部郭清術単独	12例
甲状腺悪性腫瘍手術	15例
耳下腺悪性腫瘍手術	6例
舌下腺悪性腫瘍手術	1例

79例

総症例数

631例

## 鹿児島市立病院便り

高 木 実

いつもお世話になっております。

鹿児島市立病院の高木です。

皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年は共同特定指導・病院移転・移転に伴う病棟再編・病院機能評価等の大きなイベントがあり、記憶に残る年になりそうです。

共同特定指導があるかもしれないとわかった時点より、毎日に様に㊟文書が配布されたり書式変更、規則改正、ICUがHCUに変更、救急病棟の当直が始まる等々混乱する毎日でしたが、まあ鹿児島市立病院の気質と思っています。

原稿を書いている今日は厚生労働省の共同特定指導日です。一生に1度の経験だと思って、共同特定指導でどのような指導があるか、五感を通じて感じたいと思っています。終了後はあまり厳しい指導ではなかったですが、監察官は羊の皮を被った狼と思います。どれだけの返還金になるのでしょうか？見物です。何しろ厚生労働省のエースが指導に来ているらしいですから…

まあでも皆さんが気になるのは、共同特定指導よりやはり新病院でしょうか？

紹介される患者さんたちがどんな病院で診察を受けるか気になるのではないのでしょうか？

建設中に様々な設計変更等ありましたが、着々と建設は進んでいます。

私自身も新病院どんなところかな？診察室は広いかななど色々思うところです。

内覧会等も企画されているようですので、是非来て想像してみてもはどうでしょうか？

平成27年5月1日より新病院へ無事移転することができました。新病院が皆様のお役に立てるようになっていくことと思います。

今年も色々御迷惑をかけると思いますが、御指導御鞭撻の程よろしく申し上げます。



## 藤元総合病院便り

森 園 健 介

いつもお世話になっております。藤元総合病院に勤務しております森園です。当院での勤務もかなり長くなりました。長く勤務されていた他科の先生がここ数年で数人辞められたりしたこともあり、勤務年数だけでいえば医師の中では上から数えたほうが早くなりつつある今日この頃です。

この一年間、当院は小児科の休止があったり、一時休止となっていた呼吸器内科が部分的に再開されたなどの診療科の変更などはありましたが、取り立てて院内では大きな変化はなかったように思われます。ただ都城市全体の医療でみると大きな変化がありました。それは今年の4月に都城市郡医師会病院が移転となったことです。

もともと都城市郡医師会病院は大岩田町という都城市の中でもかなり南側、鹿児島県よりにあったのですが、今回太郎坊町という都城市の北側に移転となりました。その結果、総合病院としては当院がもっとも鹿児島寄りに位置することになりました。

都城市郡医師会病院は夜間急病センターが併設されており、都城市の夜間診療の拠点となっておりますが、立地的な問題で今後大隅半島側の夜間等の急患対応として当院の比率が上がってくる可能性があるかもしれません。

一人勤務であり、知識・技術的にもまだまだ未熟で力不足ではありますが、出来る範囲で引き続き日々の診療に励みたいと思います。大学病院の先生方や近隣の開業医の先生方には御迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、引き続きどうか宜しくお願ひ致します。

## 鹿児島生協病院便り

積山幸祐

鹿児島生協病院には2014年は7人、2015年には9人の初期研修医が入職しました。若く、活気にあふれうらやましい限りです。

一方、耳鼻咽喉科は相も変わらず一人体制で、10年が経過しました。多忙を極め疲労困憊することもあります。鹿児島で数少ない耳鼻咽喉科入院施設および急性期病院という特色を生かし2015年度も手術や入院を中心にした医療活動を安全に行っていきたいと考えています。2014年度の手術室での手術症例は188例で昨年度より微減しました(別紙)。学会出張や臨時休診の影響があったかと思われます。手術はほとんど待ち期間なく施行できますのでご紹介ください。

当院では非常に珍しい症例を多く経験します。学会発表、論文としてまとめたいと考えています。

	計 (人)
扁桃摘出術 (含む+アデノイド) 切除)	81
軟口蓋形成術	2
アデノイド切除術 (含む+チューブ留置術)	3
鼓室形成術	4
鼓膜形成術	11
先天性耳瘻管摘出術	3
鼓膜チューブ留置術	9
内視鏡下鼻内副鼻腔手術 (含む+鼻中隔矯正術)	26
術後性上顎嚢胞手術	4
鼻中隔矯正術+粘膜下鼻甲介(骨)切除術	4
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	5
鼻茸摘出術	1
耳介腫瘍摘出術	1
顎下腺摘出術 (含む唾石)	2
耳下腺腫瘍手術	9
がま腫摘出術	2
舌腫瘍摘出術	1
正中頸嚢胞摘出術	2



声帯ポリープ（結節）摘出術	3
頸部腫瘍摘出術	1
唾石摘出術（口内法）	2
鰓性癌摘出術	1
鼻骨骨折整復術	3
甲状腺癌手術	2
頸部嚢胞摘出術	1
喉頭蓋嚢胞摘出術	1
頬骨骨折整復術	1
鼻口蓋管嚢胞手術	1
下咽頭異物摘出術	1
顔面神経減荷術	1
計	188

## 天辰病院便り

谷本 洋一郎

天辰病院の谷本です。天辰病院に赴任して、7年が経過しようとしています。耳鼻咽喉科外来は本院の2軒隣のあまたクリニックで診療を行っており、クリニックは耳鼻咽喉科外来と3階は職員の子供さんを預かる託児所が併設されています。自分自身の力不足もありますが、駐車場の場所が分かりにくい、たどりつくのが大変だった等の患者様からの要望もあったため、昨年末にクリニックの入り口前の木を切り、駐車場入り口の看板を立てていただきました。かなり分かりやすくなったのではないかと思います。仕事内容については大きな変化はありませんが、開業医の先生方もみなさんそうだと思いますが、今季はとにかくインフルエンザ患者さんが多く、私が赴任してから最も多い人数でした。職員も家族全員インフルエンザというところも多発し、感染予防、患者様の隔離等、毎日とても気を使いました。やっと落ち着いてきたようでほっとしています。病棟については、大学からの御紹介が中心にはなりますが、開業の先生方からの入院が必要な患者様の御紹介も頂けたらと思います。今後とも何卒よろしくお願い致します。

## X. 関連病院

(平成27年4月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月・火・木・金 (8:30~17:30) 水・土 (8:30~12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前
今村病院分院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181	火 (8:30~16:30)	
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00~17:00) 火 (9:00~11:00)	火の午後

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	土の午後
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	金 (9:00~17:00)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木 (10:00~16:30)	
田上病院	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
豊永耳鼻咽喉科医院	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	第2,4土曜日 (9:00~15:00)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	火・金 (8:30~17:00)	
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	隔週木曜日 (8:30~16:00)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 済霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkiao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成 2 年12月 7 日 ～ 3 年12月21日 平成 5 年10月12日 ～10月17日	Department of Clinical Sciences(ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジヤイ病院)	平成 3 年 4 月10日 ～ 9 月 7 日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成 4 年 5 月17日 ～ 5 年 5 月16日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成 4 年 7 月 1 日 ～ 9 月26日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成 5 年 8 月 3 日 ～ 9 月28日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成 5 年 6 月 5 日 ～ 6 月 8 日 平成 6 年 1 月18日 ～ 3 月 1 日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成 6 年 3 月11日 ～ 6 月 4 日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成 6 年 4 月 2 日 ～ 4 月19日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成 5 年 1 月25日 ～平成 9 年 3 月31日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

Ⅹ. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成 6 年 4 月 4 日 ～ 7 年 6 月 13 日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成 6 年 10 月 3 日 ～ 11 年 3 月 31 日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成 8 年 1 月 25 日 ～ 8 年 12 月 30 日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年 3 月 23 日～H13. 9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年 4 月 2 日～H17. 3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月 1 日 ～H21年 2 月 13 日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)



氏 名	最終職別	在 局 期 間
西 宜 行	研 修 生	59. 4-59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4-60. 6 61. 1-61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4-62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4-63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63.10-63.12
三 角 芳 文	研 修 生	63.10-63.12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H2. 7-H2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H2.10-H2.12
宮 原 広 典	研 修 生	H3. 1-H3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H5. 7-H5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H5.10-H5.12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H5.10-H5.12
的 場 康 平	研 修 生	H7. 1-H7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H7.10-H7.12
泊 口 哲 也	研 修 生	H8. 1-H8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H8. 7-H8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H8.10-H8.12 H9. 4-H9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H9. 1-H9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10.4-H10.6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11.1-H11.3
横 山 孝 二	研 修 生	H11.4-H11.6

氏 名	最終職別	在 局 期 間
田 中 裕 之	研 修 生	H11.7-H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13.6-H13.12
森 田 義 紀	研 修 生	H15.1-H15. 3

## 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

### (総則)

第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。

第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

### (目的ならびに事業)

第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 同門会総会の開催
2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
3. 記念事業の開催
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### (会則)

第5条 本会は会員を次のとおりとする。

教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。

第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）

第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。

第8条 会員は希望により退会することができる。

第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

### (役員)

第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。

なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。

第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

第12条 役員改選時、(旧)役員会は(新)会長候補を決定し、総会での承認を経て

新会長が選出される

- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し、会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し、会長がこれを委嘱する。  
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。  
(会議)
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。  
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し、事業計画、経理その他重要な事項を審議する。  
(会則の変更)
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て、変更することができる。  
(本会則は平成22年1月17日より施行する。)

## ●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

今年の梅雨は例年以上に雨が降り晴れ間が恋い焦がれます。あと少しの辛抱でしょうか？皆様におかれてはいかががされておりますか？

ここ一年振り返ってみると医局内も色々とありました。3月には黒野教授の還暦祝いを行いました。4月新入局員は,,,でしたが、代わりに元気な研修医の先生に来ていただきました。5月には直前まで豊永医院勤務されていた間世田先生が無事に第二子を出産されました。私事ですが、私もついに不惑の40台へ突入しました。今後も臨床・研究・教育に迷走しながら、実験の空いた時間に津々浦々のマラソン大会に出場していきます。

さて相変わらず少ない医局員ですが、仲良く臨床・研究・教育に切磋琢磨しております。微力ながら頑張ってます。医局運営のいつもご支援いただいている同門会会員の先生方にはこの場をかりてお礼申し上げます。

平成27年6月吉日

編集長(医局長) 永野 広海  
編集委員 井内 寛之  
地村 友宏  
大夫堀 昌子

### さくらじま 第29号

平成27年7月10日 印刷  
平成27年7月17日 発行  
発行 鹿児島大学大学院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室  
電話 (099) 275-5410  
印刷 斯文堂株式会社  
電話 (099) 268-8211